

みんなの意見を反映するためには

宮崎県立都城工業高等学校

2年 島本 亜美

私は、まだ選挙権を持っていません。もし私が18歳になったら、是非投票に行って、自分の意思を示して、政治に積極的に参加したいと考えています。しかし、ニュースなどで「投票率が悪い」や「若者がなかなか投票に行かない」といった報道を目にすることが多いです。若者たちも、政治に対して考えることがあり、自分たちの意見や意思を示したいと本当は思っているはずです。そこで私は、実際若い世代が選挙に関してどのように思っているのか疑問を持ちました。そこで、一番身近な本校の生徒に対して、選挙に関するアンケートを実施し、誰もが投票しやすい選挙がどのようなものか考えることにしました。なお、今回のアンケートは1年生から3年生までに協力をもらい、スマホを使用し、任意で答えてもらう形式で実施し、全校生徒698名に対し、約300名が回答してくれました。

まず、「自分が選挙権を持つようになった場合、選挙に行こうと思いますか?」という質問をしました。私は集計するまで、ほとんどの生徒が「行きたいと思わない」と答えると思っていましたが、実際は約73%の生徒が「行きたいと思う」と回答しました。その理由は、「自分の1票で自分の意思を示し、リーダーを選んでいきたい」や「学校で投票の大切さを学んだから」といった内容が多かったです。逆に、「行きたいと思わない」と回答した人の理由は、「投票に行くのが面倒くさそう」や「誰に投票していいかわからない」や「どうせ投票しても世の中は変わらないと思うから」などの意見が多かったです。

また、「行きたいと思わない」と回答した人に、「どのような選挙なら行きたいと思えますか?」という質問もしました。回答の中で、「市民に分かりやすい選挙」や「全員の意見が反映される選挙」、「選挙に行ったら、お菓子や割引券などの特典がもらえるよう

にする」などの意見がありました。様々な意見があった中で、一番多かった意見が「スマホ等で出来るインターネット投票を可能にする」という意見でした。

さらに、回答者全員に「選挙の投票率を上げるためには、どのような方法があると思いますか？」という質問も行いました。回答は1つ前の質問の回答に加え、「公約を分かりやすく有権者に伝えること」や「立候補者が SNS など、若者が使うようなツールをうまく活用すること」、「インフルエンサーを選挙の CM 等で起用する」などの意見がありました。この質問の回答でも「インターネット投票を可能にする」という意見が一番多かったです。しかし、このインターネットでの投票では、セキュリティーの関係や、有権者本人が投票したことが確認できるシステムの構築ができるかなど、課題が多いことがあるため、なかなか実現できていないようです。

今回、選挙に関するアンケートを実施し、多くの生徒が選挙に関して関心を持っており、自分たちの意思を示していきたいことや、自分たちの意見を政治に反映してもらいたいと感じていることが分かりました。私は、若者だけでなく、多くの人の意見が反映されるのが政治だと思っています。もちろん、今政治に携わっている方々が、私たちの生活のために働いてくださっていることは分かりますが、公約したことがどのように実現したかは、なかなか伝わってないのかもしれないかもしれません。成果が有権者に伝わることで、更に政治に興味を持ち、投票率の向上に繋がると私は思います。また、選挙のやり方についても検討が必要だと感じます。アンケートでも意見が多かった、インターネットでの投票など家にいながら投票できるシステムは、投票率を上げる一番の近道だと思います。

現在、私は都城工業高校で建築・土木の勉強を行っており、将来は公務員として地域のインフラ整備や公共の建築物の建設に携わっていきたいと思っています。今回の取組で、様々な意見に耳を傾け、意見を集約し、考えを述べてきました。将来、公務員なったときにも、今回のように住民の方々の意見と真剣に向き合い、住民の方々の意見が反映されるような仕事をしていきたいと考えています。